

Nutanix クラスタ停止・起動マ ニュアル

(ESMPRO/AutomaticRunningController)

2022. 06. 03
第 1 版

改版履歴

版数	改版日付	内 容
1	2022/06/03	新規作成

免責事項

本書の内容は、予告なしに変更されることがあります。

日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任をおいしません。

また、お客様が期待される効果を得るために、本書に従った導入、使用および使用効果につきましては、お客様の責任とさせていただきます。

本書に記載されている内容の著作権は、日本電気株式会社に帰属します。本書の内容の一部または全部を日本電気株式会社の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは禁止されています。

商標情報

ESMPRO は日本電気株式会社の登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標です。

Nutanix および Nutanix のロゴマークは米国およびその他の国における Nutanix, Inc. の登録商標、あるいは出願中の商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

本書に記載されたその他の製品名および標語は、各社の商標または登録商標です。

その他のシステム名、社名、製品名等はそれぞれの会社の商標または登録商標です。

表記について

本書では3種類の記号を使用しています。これらの記号は、次のような意味を持ちます。

	守らなければならない事柄や特に注意をすべき点について示します。
	確認しておかなければならないことについて示します。
	知っておくと役に立つ情報や便利なことについて示します。

目次

はじめに.....	vi
第 1 章 サポート構成	1
1.1. ESMPRO/AC の製品構成	1
1.2. Nutanix クラスタのサポート構成	2
第 2 章 Nutanix クラスタ停止・起動スクリプトとは	4
2.1. 機能概要	4
2.2. 制御端末のシャットダウンならびに起動に伴う動作概略	5
2.3. Nutanix クラスタのシャットダウンならびに起動.....	6
第 3 章 設定手順	8
3.1. Nutanix サーバ装置の環境設定	8
3.2. 制御端末(Windows サーバ)の環境設定	9
3.3. Nutanix クラスタ停止・起動スクリプトの実行準備	16
3.4. ESMPRO/AC の設定	21
3.5. Nutanix サーバ一覧ファイルの設定.....	27
3.6. Nutanix クラスタ停止・起動設定ファイルのカスタマイズ	29
第 4 章 注意事項	31

はじめに

対象読者

本マニュアルの対象読者は下記になります。

- ・ ESMPRO/AutomaticRunningController (以降 ESMPRO/AC と呼びます) を使用したサーバの電源管理を行うシステムエンジニア
- ・ ESMPRO/AC を用いたシステム導入後の保守・運用を行うシステム管理者

ESMPRO/AC を用いて、Nutanix クラスタをシャットダウンあるいは起動させるための設定手順を説明していきます。

本書の構成

第1章 「サポート構成」

ESMPRO/AC にてサポートする Nutanix クラスタ構成を説明します。

第2章 「Nutanix クラスタ停止・起動スクリプトとは」

Nutanix クラスタの停止・起動機能について説明します。

第3章 「設定手順」

Nutanix クラスタならびに制御端末 (Windows サーバ) の設定方法を、例を用いて説明します。

第4章 「注意事項」

第1章 サポート構成

1.1. ESMPRO/ACの製品構成

1 つの Nutanix クラスタに対して、下記製品構成の ESMPRO/AC が 1 つ必要となります (Nutanix クラスタを 2 つ管理したい場合は、下記製品構成の ESMPRO/AC が 2 つ必要です)。

- ・ ESMPRO/AutomaticRunningController Ver5.5
- ・ ESMPRO/AC Enterprise Ver5.5

ESMPRO/AC にてサポート対象となる Nutanix クラスタのバージョンは下記になります。

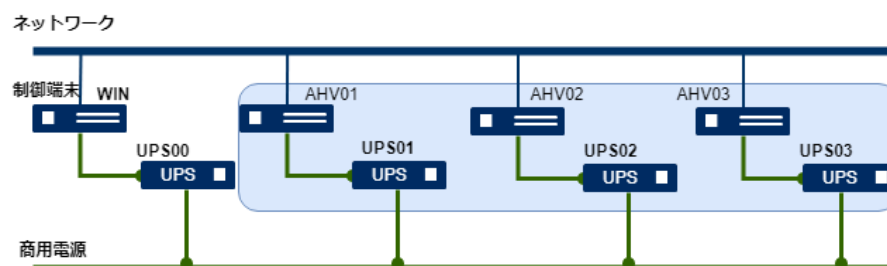
- ・ Nutanix AOS 5.20.x.y (LTS)
x ならび y は任意値

1.2. Nutanixクラスタのサポート構成

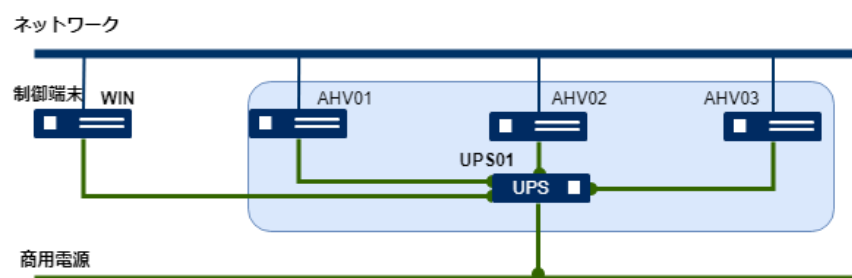
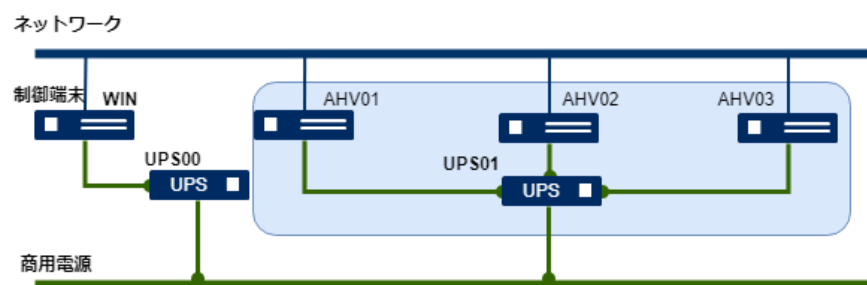
ESMPR0/AC では、下記構成の Nutanix クラスタをサポートします。

■ 3 ノード以上のクラスタ構成

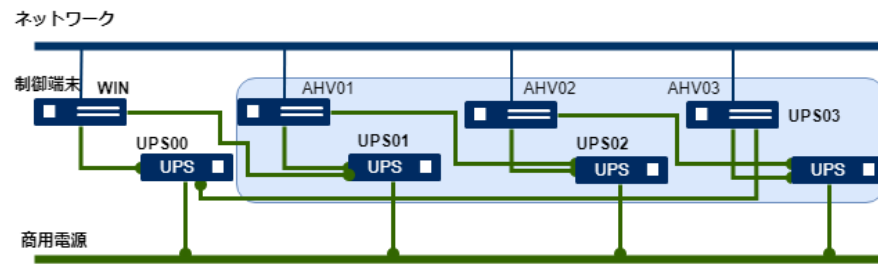
UPS とサーバを 1 対 1 構成



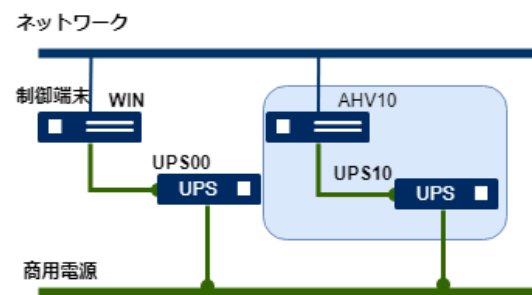
UPS とサーバ 1 対 N 構成



たすきがけ構成



■1 ノードクラスタ構成



※2 ノードクラスタ構成はサポート対象外です。

第2章 Nutanix クラスタ停止・起動スクリプトとは

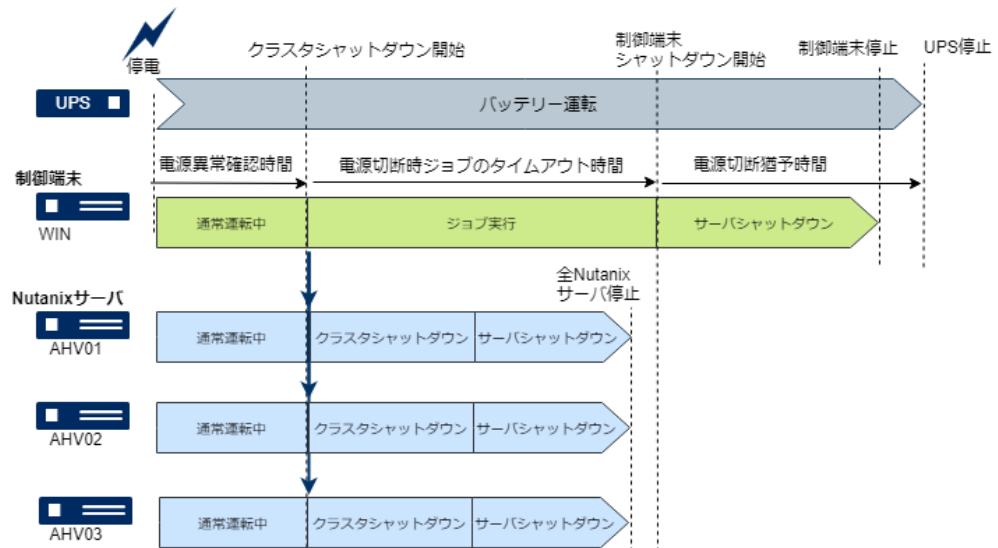
2.1. 機能概要

ESMPRO/AC において、Nutanix クラスタを停止・起動するスクリプトを、Nutanix クラスタ停止・起動スクリプトと呼びます。

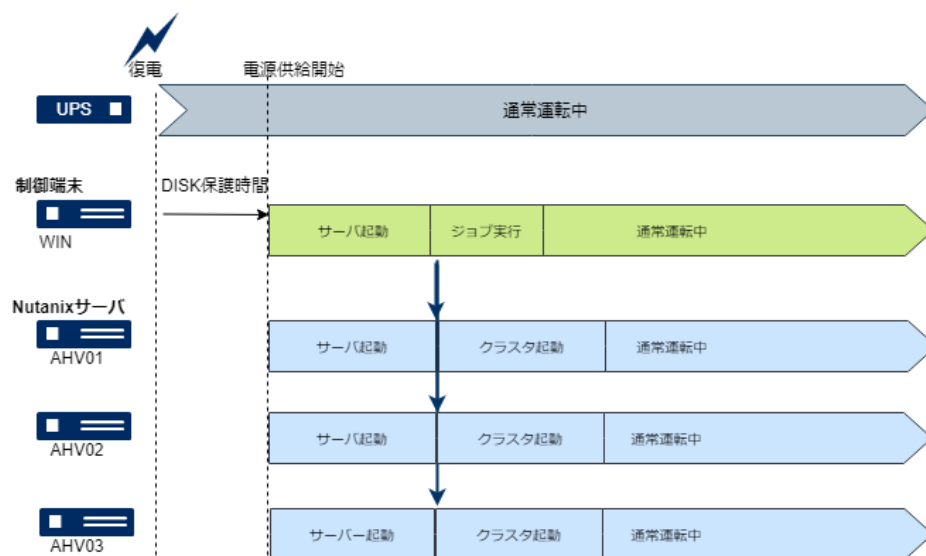
本スクリプトを使うことで、Nutanix クラスタを停電発生時に安全に停止させることができます。

2.2. 制御端末のシャットダウンならびに起動に伴う動作概略

電源切断条件が成立(例：停電発生後に「電源異常確認時間」の秒数を経過)した場合、ESMPRO/ACは「電源切断時のジョブ登録」あるいは「電源異常切断時のジョブ登録」に登録されたジョブを実行します。同ジョブを通して、Nutanix クラスタを停止させます。最後に制御端末のサーバ本体をシャットダウンします。下図は停電発生時のイメージ図です。

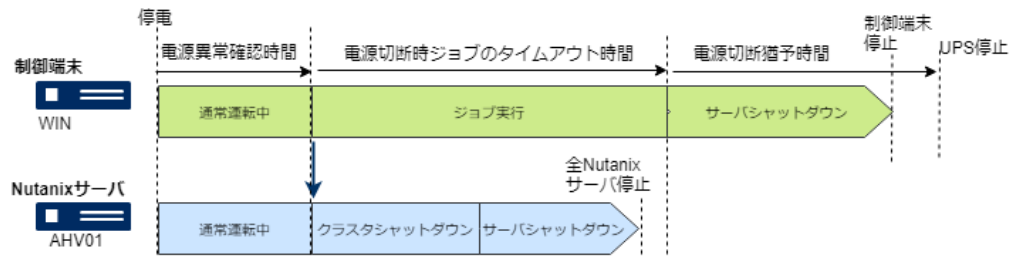


復電時には、UPSからの電源供給開始に伴い ESMPRO/AC の制御端末ならびに Nutanix クラスタを構成する全サーバが起動します。ESMPRO/ACは「電源投入時のジョブ登録」に登録されたジョブを実行します。同ジョブを通して、Nutanix クラスタを起動させます。下記に起動イメージを記載します。



2.3. Nutanixクラスタのシャットダウンならびに起動

シャットダウンの場合



ESMPRO/AC は Nutanix サーバに対して、下記 8 つの操作を上から順番に実行します。

- ① Acropolis Dynamic Scheduling (以降 ADS と記載) 機能の停止
- ② High Availability (以降 HA と記載) 機能の停止
- ③ (Controller VM (以降 CVM) と Nutanix Files の仮想アプライアンス (以降 FSVM) を除く) 全仮想マシンのシャットダウン
- ④ Nutanix Files を利用している場合、全 FSVM のシャットダウン
- ⑤ クラスタサービスの停止
- ⑥ 全 Nutanix サーバをメンテナンスモードへ変更
- ⑦ 全 CVM をシャットダウン
- ⑧ サーバシャットダウン (全 Nutanix サーバをシャットダウン)

制御端末に設定した「電源切断時ジョブのタイムアウト時間」内に、上記 ①～⑧を終える必要があるため、仮想マシンのシャットダウン (上記③④) に関して、制限時間を設けています。

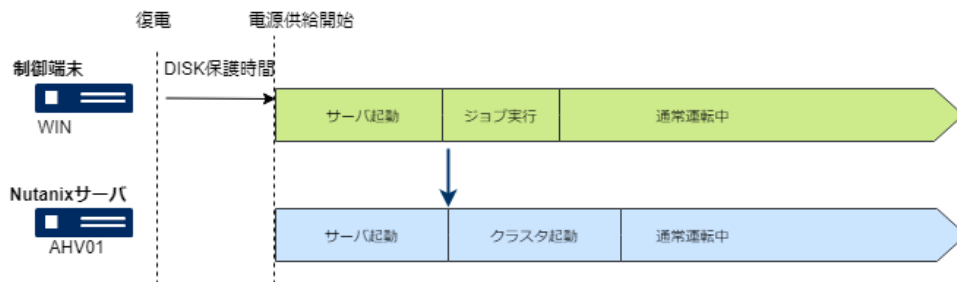
上記③に関しては、制限時間が経過しても稼働中の仮想マシンがある場合、仮想マシンを強制停止します。

上記④に関しては、制限時間が経過しても稼働中の FSVM がある場合、FSVM を強制停止します。

上記⑧に関しても制限時間を設けていますが、上記⑧に関しては制限時間を越えても強制停止は実施しません。ただし「電源切断時ジョブのタイムアウト時間」を経過した場合は、制御端末自体がシャットダウンされるため、強制停止となります。

各制限時間の設定変更方法に関しては、後続章にて説明します。

起動の場合



ESMPRO/AC は Nutanix サーバに対して、下記 7 つの操作を上から順番に実行します。ただし、ESMPRO/AC のシャットダウン時のジョブにて停止させていないサービスは、起動操作をスキップします。ESMPRO/AC が停止させていない仮想マシンの起動もスキップします。

- ① CVM の起動
- ② クラスタサービスの起動
- ③ Nutanix サーバのメンテナンスモードを解除
- ④ Nutanix Files を利用している場合、FSVM の起動
- ⑤ 仮想マシンの起動
- ⑥ HA 機能の起動
- ⑦ ADS 機能の起動

上記①と②の間には、後続処理への影響を考慮して待ち時間を設けています(デフォルト 5 分)。

また④と⑤にはそれぞれ制限時間を設けています。制限時間を越えた場合には、次の処理を開始します(例 ④を実行中で制限時間を越えた場合、⑤の処理を開始します)。

待ち時間ならびに各制限時間の設定変更方法に関しては、後続章にて説明します。

第3章 設定手順

3.1. Nutanixサーバ装置の環境設定

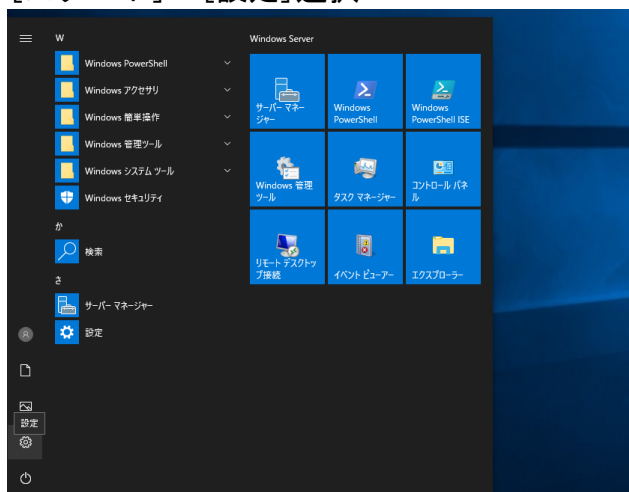
サーバ装置の BIOS の設定で Automatic Power-On を「Always Power On」に設定します。BIOS の設定変更の方法については、サーバにより異なりますので、サーバ本体添付のマニュアルを参照してください。

3. 2. 制御端末 (Windowsサーバ) の環境設定

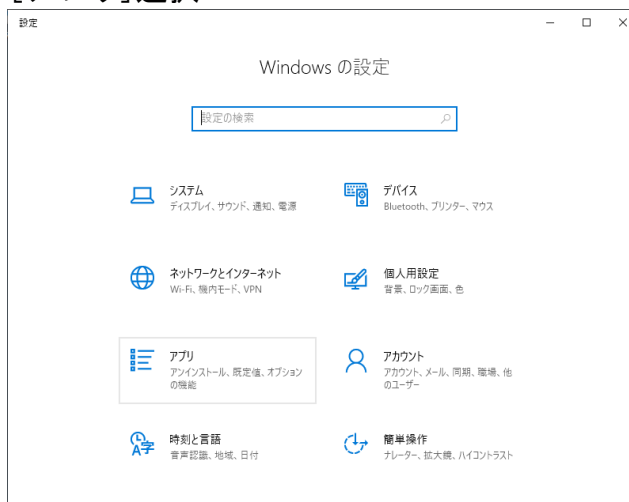
Nutanix クラスタ停止・起動スクリプトは OpenSSH を利用しています。
OpenSSH を利用できるように設定します。

1. 制御端末である Windows サーバから、OpenSSH クライアントが使えるよう設定してください。Windows Server 2019 あるいは Windows 10 1809 より、OpenSSH は Windows の機能として提供されています。同 OS を制御端末として利用する場合は、OpenSSH クライアント機能が有効となっていることをご確認ください。手順は下記の通りです。

[スタート]→[設定]選択



[アプリ]選択



[アプリと機能]→[オプション機能の管理]選択



[OpenSSH クライアント]があることを確認



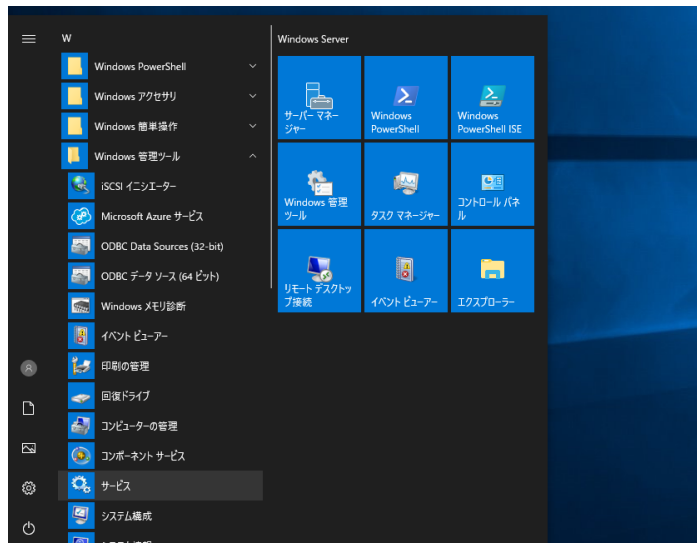
Windows Server 2019 ならびに Windows 10 以外の Windows OS を制御端末として利用する場合は、OpenSSH のダウンロードならびにインストールが必要です。Microsoft による GitHub の OpenSSH フォークリポジトリに OpenSSH が公開されております。ダウンロードならびにインストールは下記 URL を参照ください。

<https://github.com/powershell/Win32-OpenSSH>

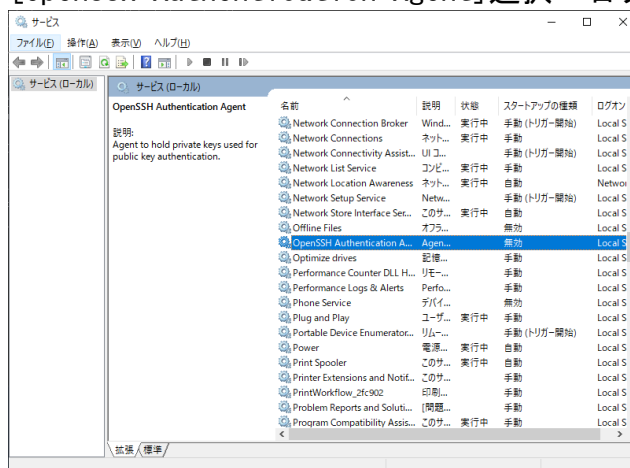
上記 URL から OpenSSH をダウンロードならびにインストールをした場合には、OpenSSH をインストールしたフォルダの絶対パスを環境変数 Path に追加してください。

2. 制御端末である Windows サーバにて、「OpenSSH Authentication Agent」サービスの起動設定をしてください。手順は下記の通りです

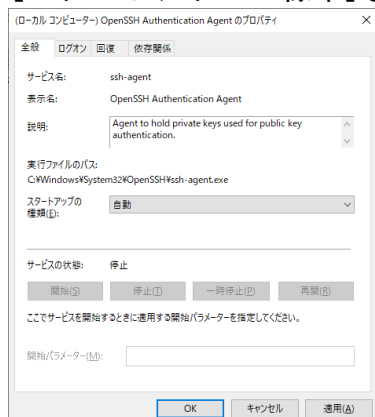
[スタート]→[Windows 管理ツール]→「サービス」クリック



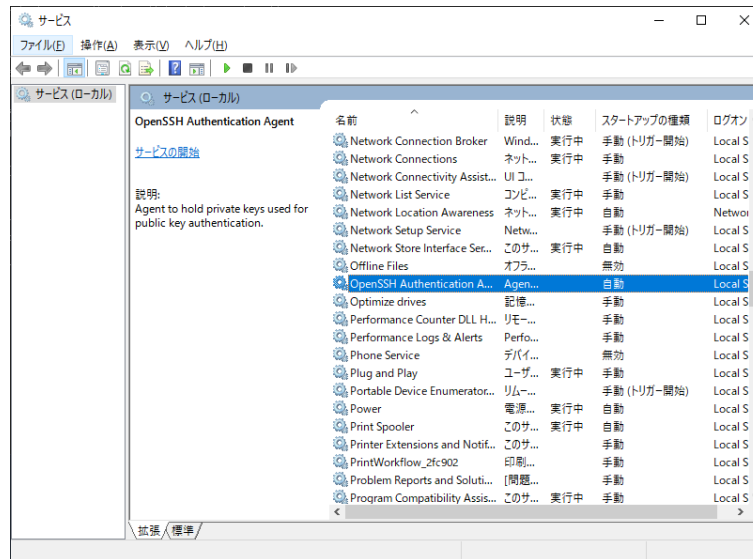
[OpenSSH Authentication Agent]選択→右クリック→[プロパティ]



[スタートアップの標準]を[自動]に変更→[OK]



[サービス開始]をクリック



3. Nutanix サーバ(AHV)と Controller VM(CVM)に接続するための公開鍵ならびに秘密鍵を作成してください。具体的には、Administrator あるいは Administrator 権限を持つユーザにて管理者権限でコマンドプロンプトを開き、下記コマンドを入力してください。

```
C:\Users\Administrator> ssh-keygen -f id_acuser
Generating public/private rsa key pair.
Enter passphrase (empty for no passphrase): ←空入力でEnterキー
Enter same passphrase again: ←空入力でEnterキー
Your identification has been saved in id_acuser
Your public key has been saved in id_acuser.pub
The key fingerprint is:
SHA256:xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
administrator@WIN
The key's randomart image is:
+---[RSA 3072]-----+
|
|  xxx x   xx
|   x x  xxxx
|  x x xx xxx x
|   x x  xxx x x
|  x x x xxxx x
|     x xxxx
|   xxx xxx x
| xxxxxxxx
| xxxxxx
+---[SHA256]-----+

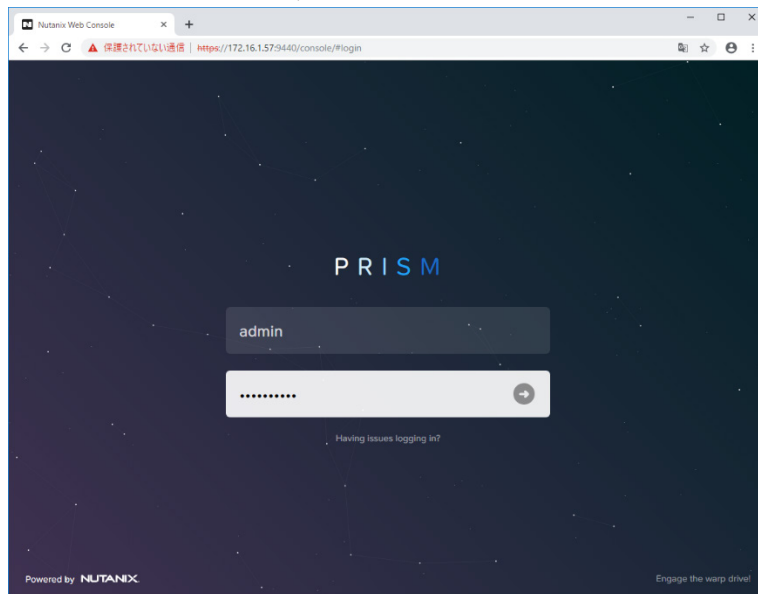
C:\Users\Administrator> dir ←鍵が生成されていること確認
2022/01/27 11:47 <DIR> .
2022/01/27 11:47 <DIR> ..
2022/01/27 11:47 2,610 id_acuser ←秘密鍵
2022/01/27 11:47 580 id_acuser.pub ←公開鍵
```

- 秘密鍵を「OpenSSH Authentication Agent」サービスに登録します。

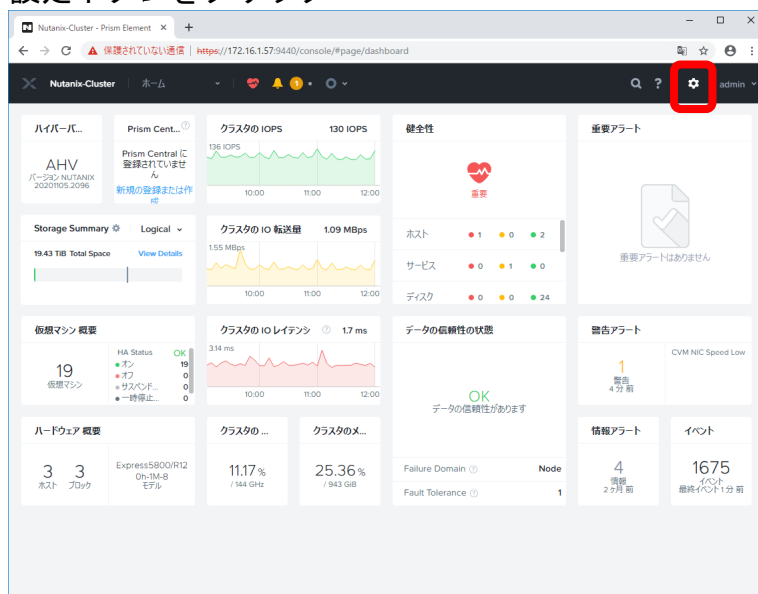
```
C:\Users\Administrator> ssh-add "C:\Users\Administrator\id_acuser"
Identity added: C:\Users\Administrator\id_acuser (administrator@WIN)
```

- Nutanix クラスタを構成する各サーバならびに CVM に公開鍵を転送します。手順は下記の通りです。

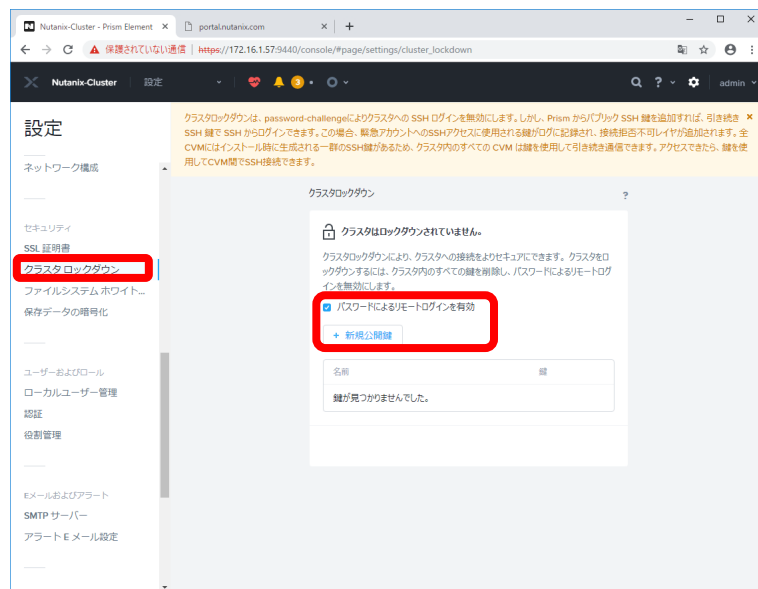
Nutanix Prism にログイン



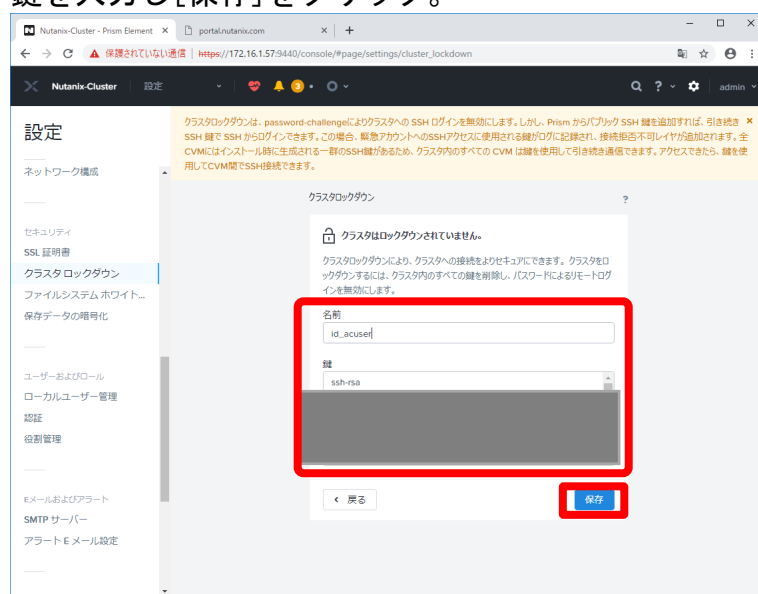
設定ボタンをクリック



[セキュリティ]の[クラスタロックダウン]をクリック。
[パスワードによるリモートログイン有効]にチェックを入れ、[+新規公開鍵]をクリック

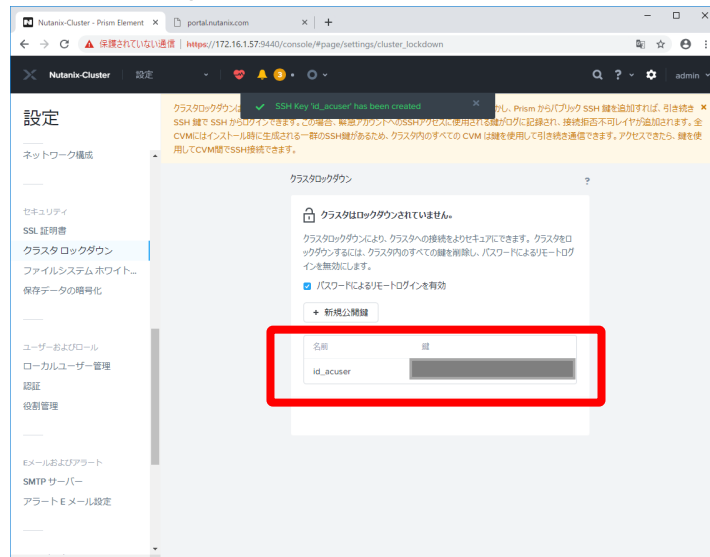


[名前]に任意名称を入力(下記では id_acuser と入力)、[鍵]に公開鍵を入力し[保存]をクリック。



[名前]欄には半角英数字、全角文字、全角数字が入力可能ですが、Nutanix Prismの仕様に関しては、Nutanix社にお問合せ願います

公開鍵が登録されたことを画面から確認。



- 前述 4. にて ssh-agent へ登録が終わった秘密鍵は、セキュリティで保護された場所にバックアップをとった後、制御端末である Windows サーバから削除します。

秘密鍵は ssh-agent から取得することはできません。バックアップをとった秘密鍵を紛失した場合でかつ誤って ssh-agent に登録した秘密鍵を削除した場合は、上記 3. からやり直しになりますのでご注意ください。

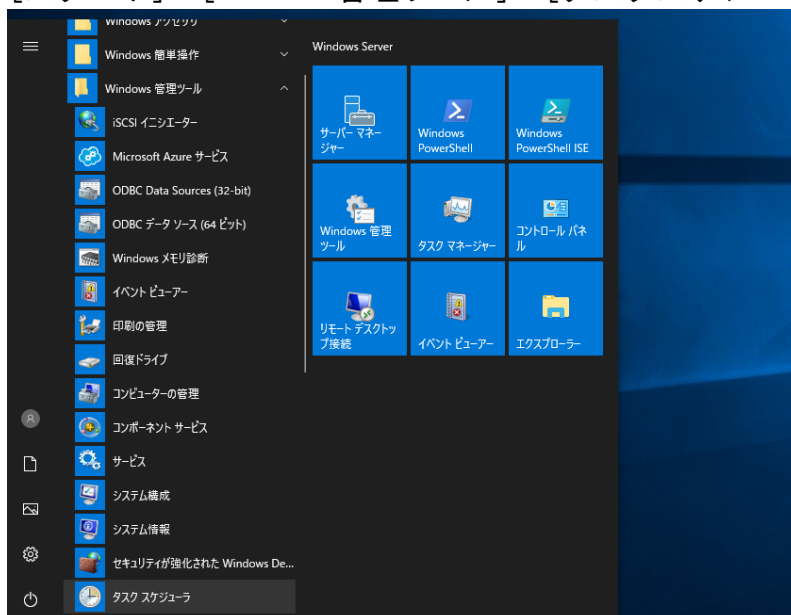
3.3. Nutanixクラスタ停止・起動スクリプトの実行準備

Nutanix クラスタの停止ならびに起動は、ESMPRO/AC のジョブ機能と Windows OS のタスクスケジューラを用いて実現します。

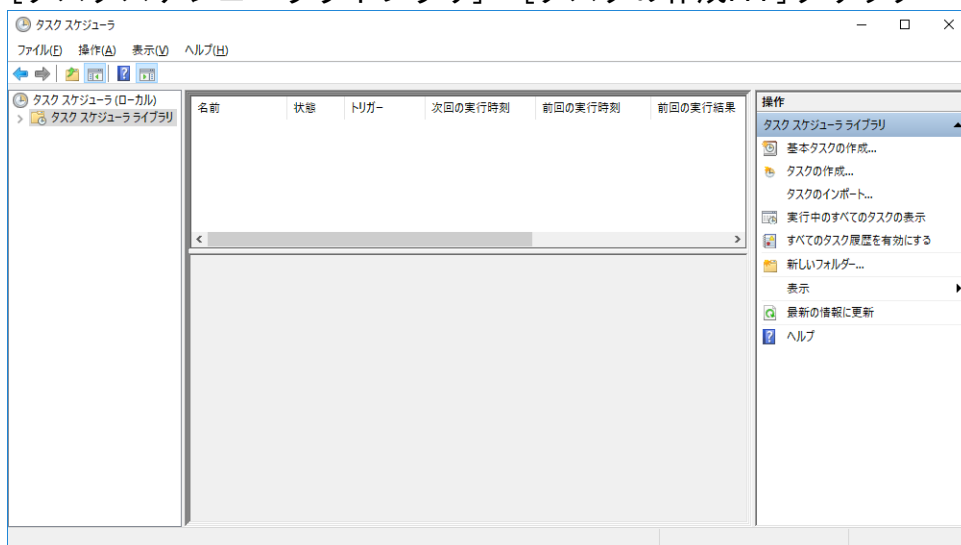
本作業は前節にて OpenSSH の秘密鍵・公開鍵を作成したユーザにて行います。

1. タスクスケジューラに Nutanix 停止・起動スクリプトを登録します。

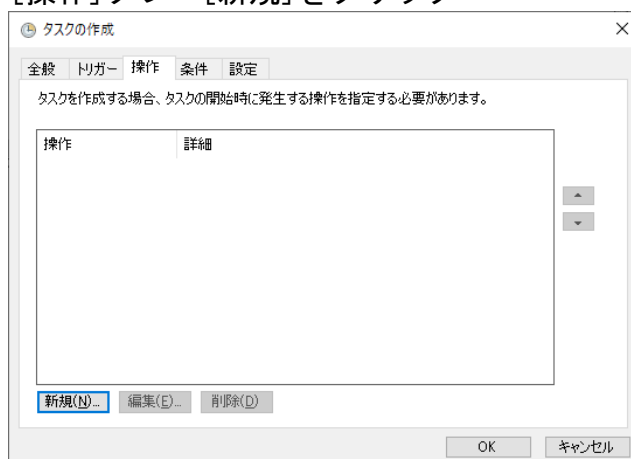
[スタート]→[Windows 管理ツール]→[タスクスケジューラ]クリック



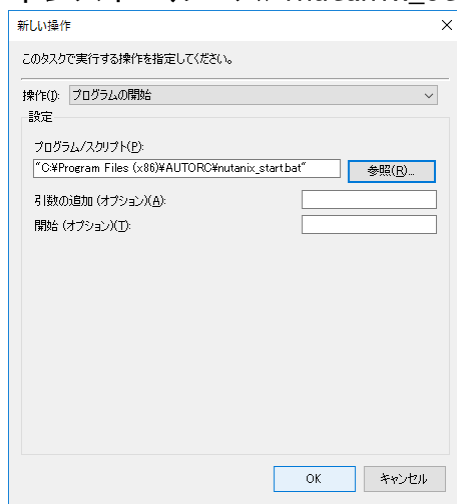
[タスクスケジューラライブラリ]→[タスクの作成...]クリック



[操作] タブ→[新規]をクリック

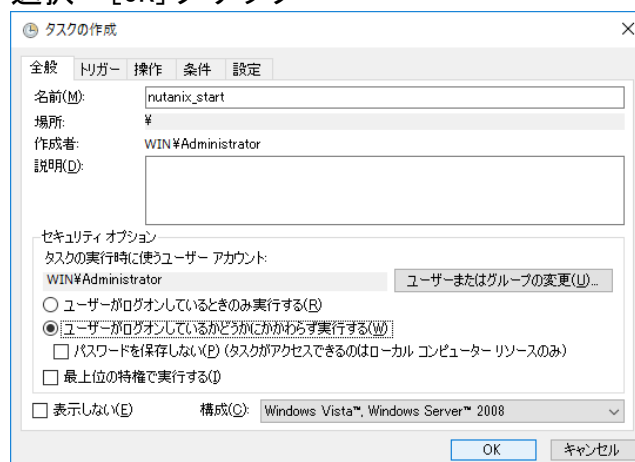


[プログラムスクリプト]に Nutanix 起動スクリプト「” <ESMPRO/AC インストールパス>%nutanix_start.bat” 」を登録→[OK]

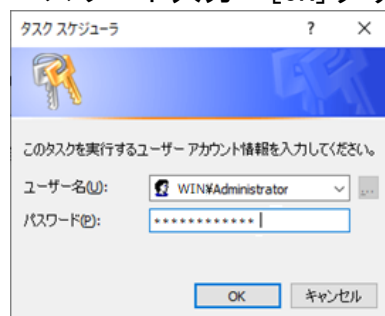


<ESMPRO/ACインストールパス>のデフォルト値は下記値です。
” C:\Program Files (x86)\AUTORC”

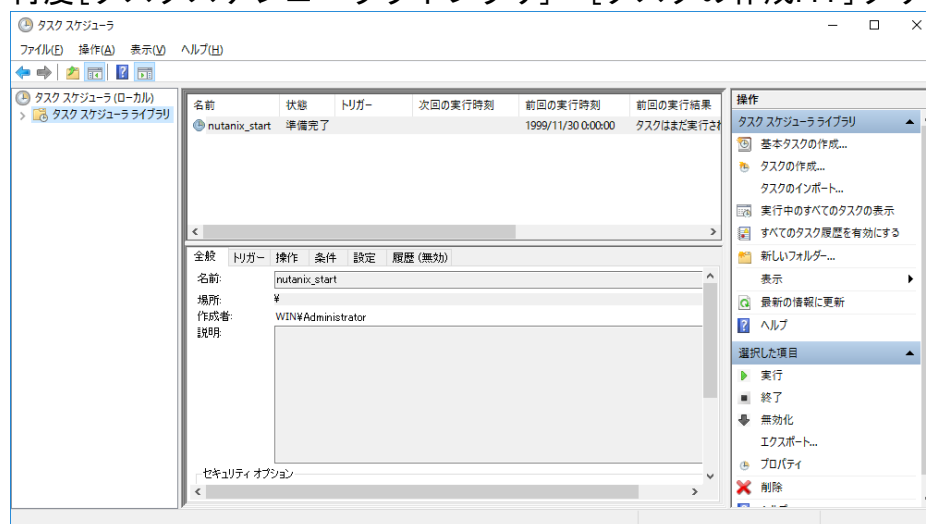
[全般] タブ→[名前]に「nutanix_start」、[セキュリティオプション]に「ユーザがログオンしているかどうかに関わらず実行する」を選択→[OK] クリック



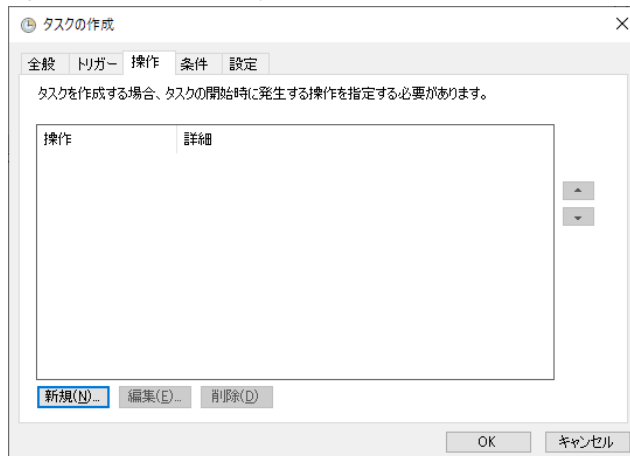
パスワード入力→[OK] クリック



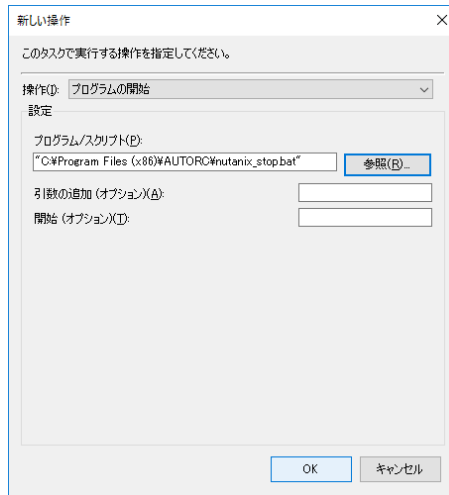
再度[タスクスケジューラライブラリ]→[タスクの作成...]クリック



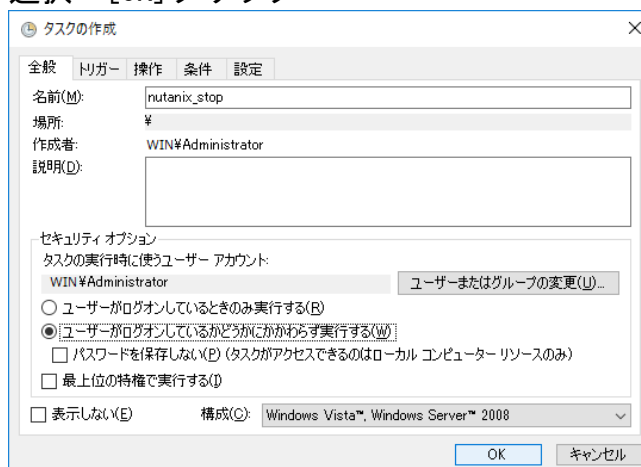
[操作] タブ→[新規]をクリック



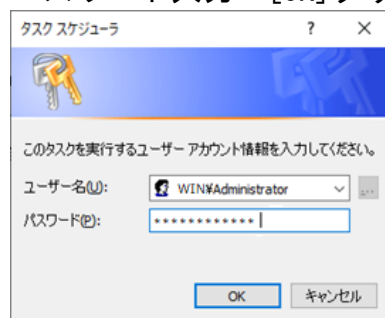
[プログラムスクリプト]に Nutanix 停止スクリプト「” <ESMPRO/AC インストールパス>%nutanix_stop.bat” 」を登録→[OK]



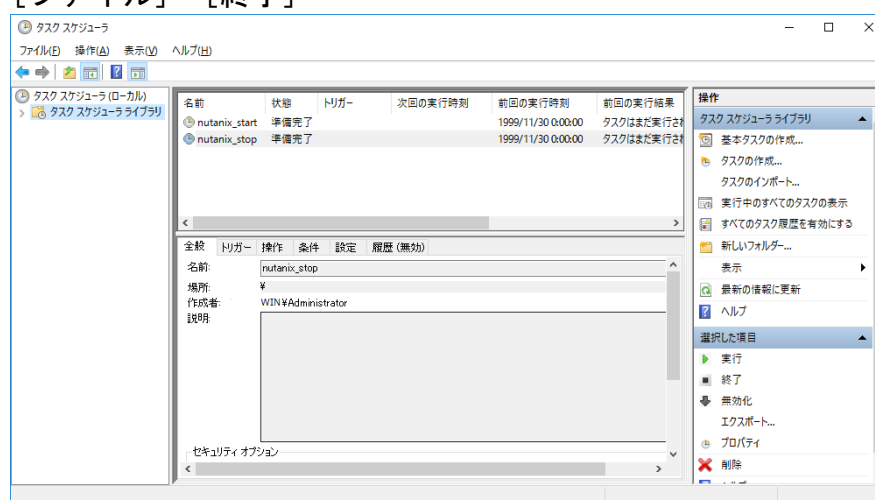
[全般] タブ→[名前]に「nutanix_stop」、[セキュリティオプション]に「ユーザがログオンしているかどうかに関わらず実行する」を選択→[OK]をクリック



パスワード入力→[OK]クリック



[ファイル]→[終了]



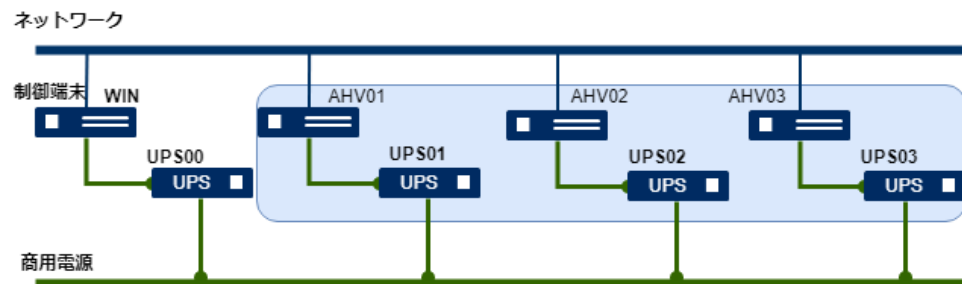
[タスクスケジューラライブラリ]以外の場所にタスクを作成した場合は動作しません。タスクは必ず、[タスクスケジューラライブラリ]に作成してください。

3. 4. ESMPRO/ACの設定

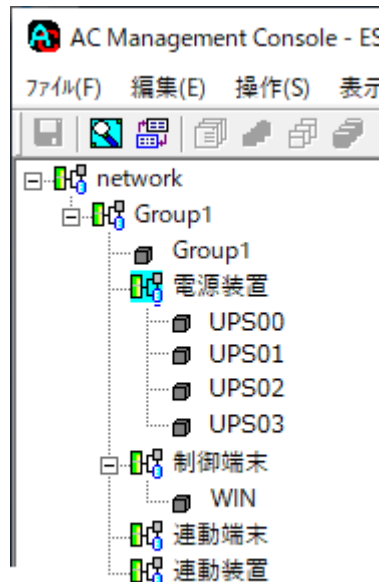
ESMPRO/AC における設定項目を記載します。

設定には「AC Management Console」(以降 AMC と呼びます)ならびに「ESMPRO/AutomaticRunningController GUI」を利用します。使い方は「ESMPRO/AC Enterprise」のセットアップカード参照ください。ここでは Nutanix クラスタのシャットダウンならびに起動に関連する事項のみを記載します。

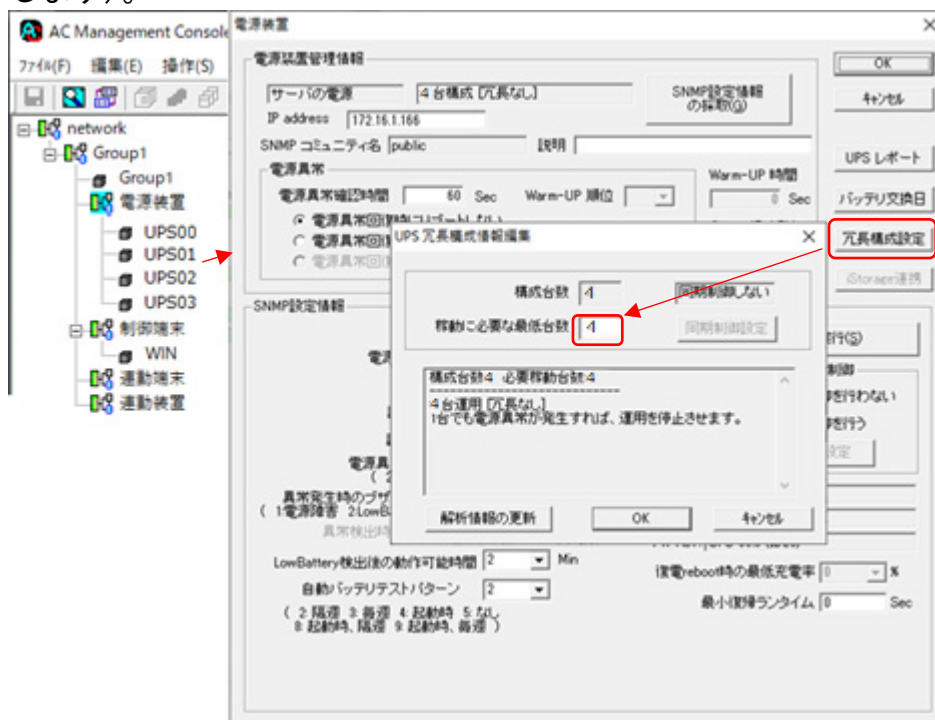
1. AMC を用いて AMC ツリーを作成します。制御端末と同じグループの電源装置として、制御端末である Windows サーバを接続している UPS と、Nutanix サーバを接続している全 UPS を登録します。Nutanix サーバ自体は AMC ツリーに登録しません。
例えば、下記システム構成の電源管理をする場合



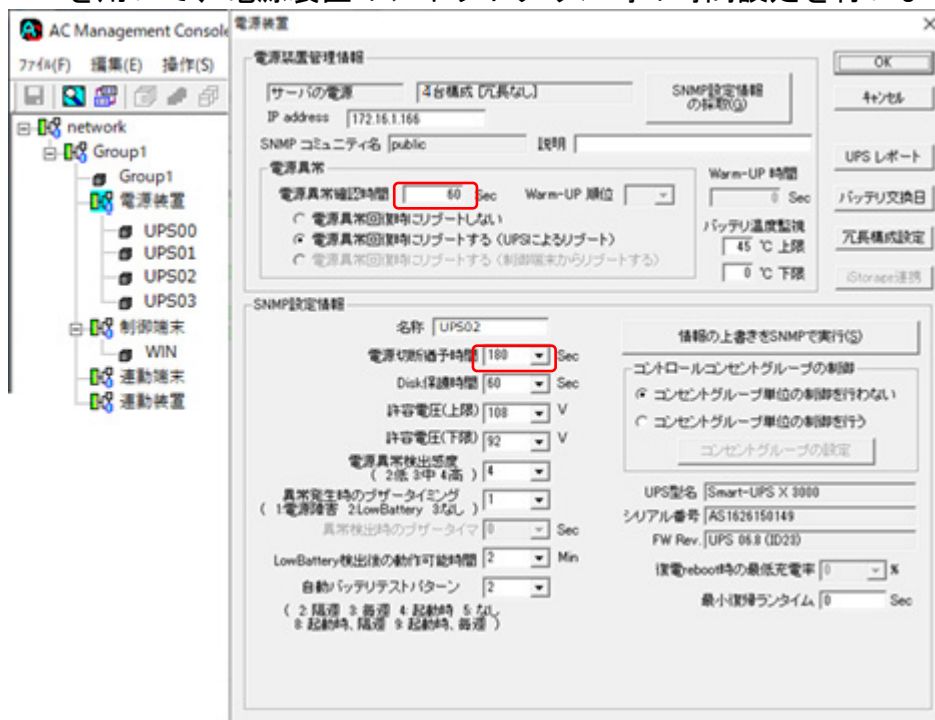
下記 AMC ツリーを作成します。



2. AMC を用いて、電源装置を冗長構成として登録します。電源装置の [冗長構成設定] をクリックし、[稼働に必要な構成台数] を UPS の [構成台数] と同じ台数に設定します (本例はたすきがけ構成ではありませんが、たすきがけ構成の場合は UPS の [構成台数]-1 の台数に設定します)。

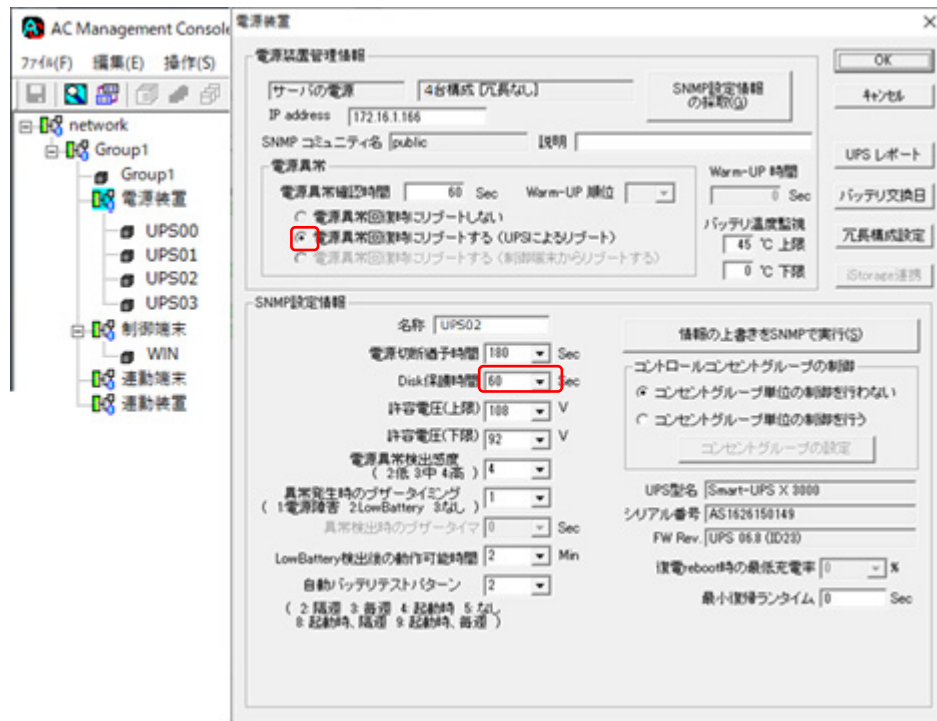


3. AMC を用いて、電源装置のシャットダウン時の時間設定を行います。



[電源異常確認時間]ならびに[電源切断猶予時間]は全 UPS で同じ値を設定します。

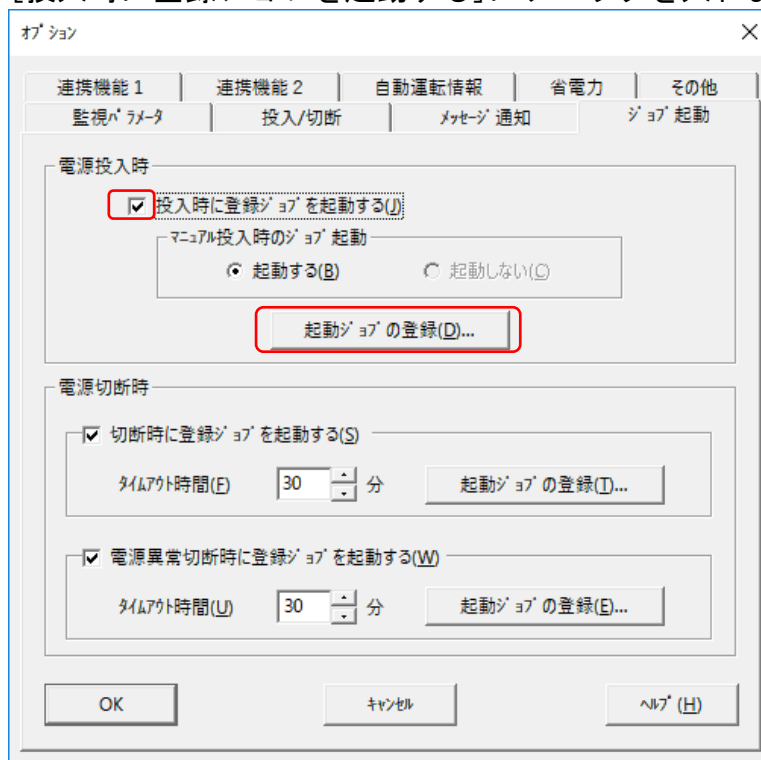
4. AMC を用いて、電源装置の起動時の時間設定を行います



電源異常回復時にサーバを起動したい場合は、[電源異常回復時にリブートする (UPS によるリブート)]を選択します。全 UPS で同じ設定をしてください。

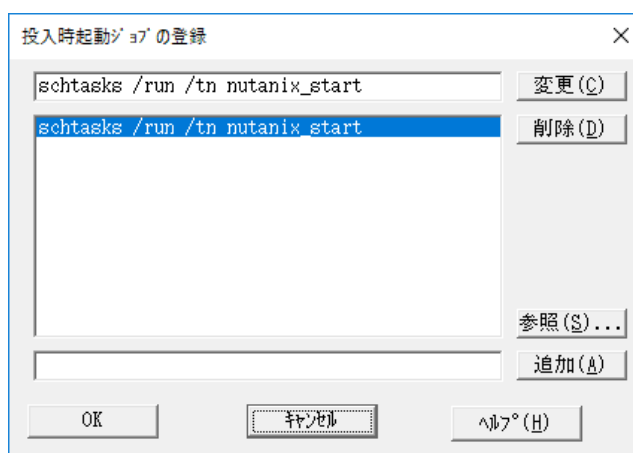
[DISK 保護時間]は、復電後に UPS からサーバへ電源供給を開始するまでの待ち時間です。全 UPS で同じ値を設定してください。

5. 「ESMPRO/AutomaticRunningController GUI」を起動し、[オプション]ボタン→[ジョブ起動]タブをクリックします。
[投入時に登録ジョブを起動する]にチェックを入れます。



「投入時に起動するジョブ」に対して[起動ジョブの登録...]をクリックし、下記ジョブを登録します。

1. 「schtasks /run /tn nutanix_start」

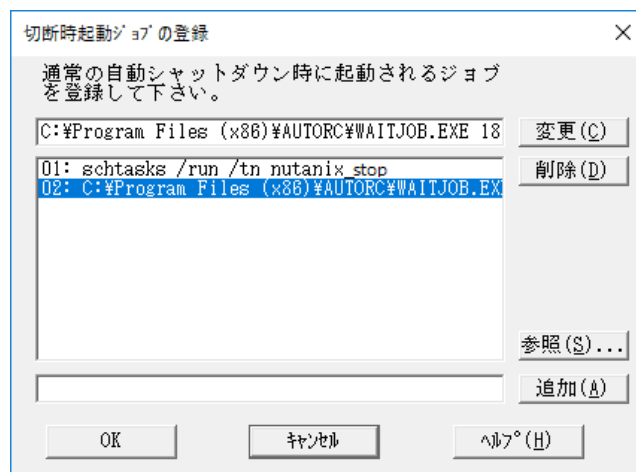


[切断時に登録ジョブを起動する] [電源異常切断時に登録ジョブを起動する]にチェックをいれます。

[タイムアウト時間]に、Nutanix クラスターのシャットダウンに必要な時間(単位:分)を設定します。「切断時に起動するジョブ」と「電源異常切断時に起動するジョブ」とで同じ値を設定してください。最大時間は 30 分です。

「切断時に起動するジョブ」と「電源異常切断時に起動するジョブ」それぞれに対して、[起動ジョブの登録...]をクリックし、下記 2 つのジョブを登録します。

1. 「schtasks /run /tn nutanix_stop」
2. 「<ESMPRO/AC インストールパス>%WAITJOB.EXE <Nutanix クラスターのシャットダウンに必要な時間(単位:秒)>」



WAITJOB.EXEに引数として渡す時間(単位:秒)と、[タイムアウト時間](単位:分)は同じ時間を設定してください(単位が異なりますのでご注意ください)。

3.5. Nutanixサーバー一覧ファイルの設定

Nutanix クラスタの各サーバー情報を、「<ESMPRO/AC インストールパス>%DATA%nutanix」フォルダから template_nutanix_hosts.csv ファイルを同フォルダに nutanix_hosts.csv の名称でコピーして記載してください。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	id	ahv user name	ahv ip address	ahv port number	cvm user name	cvm ip address	cvm port number	remarks
2	1	nutanix	172.16.1.170	22	nutanix	172.16.1.57	22	
3	2	nutanix	172.16.1.171	22	nutanix	172.16.1.58	22	
4	3	nutanix	172.16.1.172	22	nutanix	172.16.1.59	22	

電源管理対象の Nutanix サーバ 1 台につき 1 行記載します。

設定項目は下記の通りです。空欄ならびに誤記がある場合、Nutanix クラスタのシャットダウンならびに起動は正常に動作しません。正しい情報を設定してください。

項目名	設定値	設定内容説明
id	半角正数値	行を識別するための一意な正数値。
ahv user name	半角英数字 (1～32文字)	AHVの管理者ユーザ名。
ahv ip address	形式 xxx. xxx. xxx. xxx (xxxは半角数字)	AHVのIPアドレス。 (例：172.16.1.170)
ahv port number	半角数字 (0～65535)	AHVのSSH接続ポート番号。
cvm user name	半角英数字 (1～32文字)	CVMの管理者ユーザ名。
cvm ip address	形式 xxx. xxx. xxx. xxx (xxxは半角数字)	CVMのIPアドレス。 (例：172.16.1.57)
cvm port number	半角数字 (0～65535)	CVMのSSH接続ポート番号。
remarks	255バイト未満の 任意文字列	備考(本設定項目のみ空欄可)

上記設定の際には、制御端末である Windows サーバから全 AHV ならびに全 CVM に対して SSH 接続ができ、sudo コマンドが実行できることを事前に確認してください。下記に確認例を記載します。下記例では AHV 管理者ユーザ名「[nutanix](#)」、SSH 接続ポート番号「[22](#)」、IP アドレスを「[172.16.1.170](#)」と仮定した例となります。

```
C:\Users\Administrator> ssh -l nutanix -p 22 172.16.1.170 whoami
Nutanix AHV
nutanix

C:\Users\Administrator> ssh -l nutanix -p 22 172.16.1.170 sudo whoami
Nutanix AHV
root
```

下記例では CVM の管理者ユーザ名「[nutanix](#)」、SSH 接続ポート番号「[22](#)」、IP アドレスを「[172.16.1.57](#)」と仮定した例となります。

```
C:\Users¥Administrator> ssh -l nutanix -p 22 172.16.1.57 whoami
Nutanix Controller VM
nutanix

C:\Users¥Administrator> ssh -l nutanix -p 22 172.16.1.57 sudo whoami
Nutanix Controller VM
root
```

3. 6. Nutanixクラスタ停止・起動設定ファイルのカスタマイズ

Nutanix クラスタの停止・起動に関する設定値を「<ESMPRO/AC インストールパス>%DATA%\nutanix」フォルダから template_nutanix_startstop.ini を同フォルダに nutanix_startstop.ini の名称でコピーして、お客様環境に適した設定値にカスタマイズしてください。

設定値が適切でない場合、正しくシャットダウン・起動ができません。

```

nutanix_startstop.ini - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
[cluster]

durationsec_vm_shutdown=60
durationsec_vm_startup=60
durationsec_fsvm_shutdown=60
durationsec_fsvm_startup=60
durationsec_host_shutdown=180
waitsec_align_cvm_startup=300
  
```

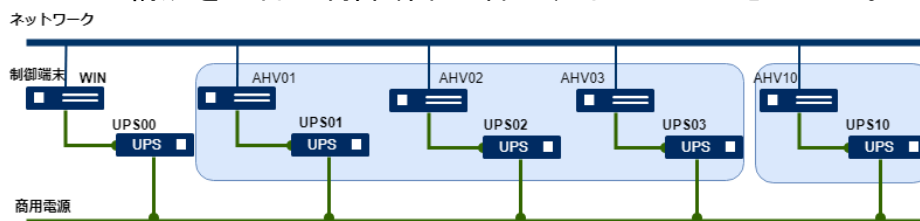
設定項目は下記の通りです。

項目名	設定値	設定内容説明
durationsec_vm_shutdown	半角数字 (0 ~ 2989020)	仮想マシンシャットダウン 所要時間(単位: 秒) 稼働中の全仮想マシンを シャットダウンするのに必要 な時間。
durationsec_vm_startup	半角数字 (0 ~ 2989020)	仮想マシン起動所要時間 (単位: 秒)。 全仮想マシンを起動するの に必要な時間。
durationsec_fsvm_shutdown	半角数字 (0 ~ 2989020)	Nutanix Files停止所要時間 (単位: 秒)。 Nutanix Filesを停止させる のに必要な時間。Nutanix Filesを利用していない場 合、カスタマイズ不要です。
durationsec_fsvm_startup	半角数字 (0 ~ 2989020)	Nutanix Files起動所要時間 (単位: 秒)。 Nutanix Filesを起動させる のに必要な時間。Nutanix Filesを利用していない場 合、カスタマイズ不要です。
durationsec_host_shutdown	半角数字 (0 ~)	物理マシンシャットダウン

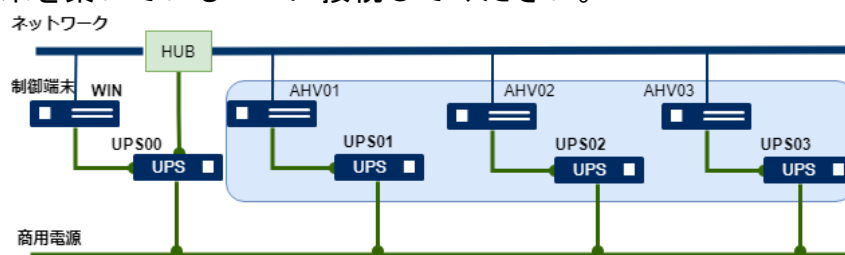
	2989020)	所要時間(単位：秒)。 AHVにシャットダウン命令を発行してから、AHVがシャットダウン完了するまでにかかる時間。
waitsec_align_cvm_startup	半角数字 (0~36000)	CVM起動待ち合わせ時間(単位：秒)。 CVMを起動してから、次の処理(Nutanixクラスタの起動処理)を開始するまでに必要な待ち合わせ時間。
waitsec_align_hosts_startup	半角数字 (0~36000)	仮想サーバ起動待ち合わせ時間(単位：秒) クラスタを構成する仮想サーバがVM起動開始の足並みを揃えるための待ち時間。

第4章 注意事項

1. サポート対象は1 ノードクラスタと 3 ノード以上のクラスタとなります。2 ノードクラスタはサポート対象外です。
2. オンプレ構成のみがサポート対象となります。クラウド構成はサポート対象外です。
3. ESMPRO/AC の制御端末 1 台で管理できるのは 1 クラスタのみです。下記のように 2 つの構成を 1 台の制御端末で管理することはできません。



4. クラスタと制御端末を繋げるためのネットワーク機器がある場合は、制御端末を繋いでいるUPSに接続してください。



5. Nutanix クラスタ停止・起動スクリプトで実現できるのは、Nutanix クラスタのシャットダウンならびに起動のみです。Nutanix クラスタの状態を監視したい場合は、Nutanix Prism をご利用ください。
6. クラスタシャットダウン時において、仮想マシンは順不動でシャットダウンします。仮想マシンの起動も順不同となります。
7. ESMPRO/AC は、Nutanix サーバ一覧ファイルに登録した全 Nutanix サーバをシャットダウンします。同ファイルに記載した一部の Nutanix サーバだけをシャットダウンすることはできません。
8. 部分停電（一部の UPS だけで電源障害）が発生した場合でも、全サーバをシャットダウンします。シャットダウン後、電源障害が発生していない UPS に接続したサーバだけが再起動します。

9. Nutanix クラスタを ESMPRO/AC からリブートすることはできません。リブートをした場合は、シャットダウンを実行した後、手動で各サーバに電源を投入して起動してください。
10. Nutanix Files をサポートするのは 3 ノード以上のクラスタとなります。